

里山に託す私たちの未来

里山活動実践事例発表会

君津の里山のにぎわい

～にぎわいの里山活動 楽しく 深め つなげよう～



平成28年10月8日（土）

内みのわ運動公園市民体育館

（君津市都市緑化祭会場内）

主催 きみつ里山活動ネットワーク

共催 NPO法人ちば里山センター

「君津の里山のにぎわい」

きみつ里山活ネットワーク実践事例発表会 ちば里山LIFE体験交流事業・基調講演 テント村・展示の参加団体活動紹介

目次	ページ
きみつ里山活動ネットワーク代表のあいさつ	1
特定非営利活動法人ちば里山センター理事長あいさつ	2
基調講演：講師紹介と講演要旨 地域の誇りと日々の ^{なりわい} 生業を売る	3
発表・テント村・展示参加団体一覧	5
発表要旨	
・発表1：鹿野山愛彩の会	7
・発表2：マリポーサ	10
・発表3：NPO法人ハナノモリ	12
・発表4：まちづくりエーション	13
・発表5：キミクリ2016	15
・発表6：亀岩の洞窟	18
資料1 君津市の公園・緑地・市民の憩いの場	20
資料2 君津市の農・林業について	22
きみつ里山活動ネットの紹介と加入案内	26

○ テーマ主題の説明・・・君津の里山のにぎわい

(2015 ちば里山宣言 in 君津より)

里山は、先人が自然に働きかけ創り上げた豊かな生活空間です。

里山は、水・薪炭・茅・山菜・落ち葉・緑肥・木材など多様な恵みをもたらす命山です。

里山は、季節ごとに姿を変え、心をいやす美しい景観、心のふるさとです。

いま里山の多くが、人の手が遠ざかりにぎわいを忘れ、荒れ、寂しく、沈んでいます。

そこで、里山で活動している団体や、里山に関心がある市民・企業など、様々な立場の人々が、交流や情報の共有を通して、それぞれが持っている技術や知恵、人材などのネットワークを構築することにより、ひとつの大きな力となって、多様な里山活動を互いに支えながら、人や生き物にとってかけがえのない里山の環境を、未来に引き継ぐことを目的としています。(里山に託す私たちの未来)

里山に託す私たちの未来

君津の里山のにぎわい

～にぎわいの里山活動 楽しく・深め・つなげよう～

2016 **10**月 **8**日(土)

内みのわ運動公園市民体育館
(君津市都市緑化祭会場内)

基調講演

地域の誇りと日々の^{なりわい}生業を売る

房総の立地と豊かな農・林・漁業生産力こそ宝だ

講師 鴨川「みんなみの里」事務局長

清水 宏 氏

どなたでも
参加できます
申込不要
参加費200円
資料代

9:00～
里山テント村

12:30
開会行事

13:20
基調講演

15:00
里山活動
事例発表

16:30
意見交換

17:00
閉会

里山活動発表

市内で活動するグループが
活動内容を発表します。
君津の里山の魅力、活動の
楽しさを発見できます。

ギャラリー展示

君津市内で撮影された里山
や、富士山などの風景写真
を展示します。里山の美し
さ、君津の景観の魅力を再
発見。

里山テント村

里山からの恵みを使った加
工品の販売やクラフトワー
ク体験ができます。
盆栽づくり・ドングリスト
ラップ(無料体験)、ハチミツ・
パパイヤ茶・黒文字楊枝の
販売等



主催 きみつ里山活動ネットワーク 特定非営利活動法人ちば里山センター
共催 君津市造園建設業協同組合

君津の里山のにぎわい

～にぎわいの里山活動 楽しく・深め・つなげよう～

里山は、先人が自然に働きかけ創り上げた豊かな生活空間です。里山は、水・薪炭・茅・山菜・落ち葉・緑肥・木材など多様な恵みをもたらす命山です。里山は、季節ごとに姿を変え、心をいやす美しい景観、心のふるさとです。

いま里山の多くが、人の手が遠ざかりにぎわいを忘れ、荒れ、寂しく、沈んでいます。そこで、里山で活動している団体や、里山に関心がある市民・企業など、様々な立場の人々が、交流や情報の共有を通して、それぞれが持っている技術や知恵、人材などのネットワークを構築することにより、ひとつの大きな力となって、多様な里山活動を互いに支えながら、人や生き物にとってかけがえのない里山の環境を、未来に引き継ぐことを目的としています。

■開会式 12:30

- ・主催者挨拶 きみつ里山活動ネットワーク
特定非営利活動法人 ちば里山センター
- ・来賓ご挨拶 君津市

■基調講演 13:20～

講師 **清水 宏氏**

地域の誇りと日々の^{なりわい}生業を売る

～房総の立地と豊かな農・林・漁業生産力こそ宝だ～



【清水宏氏プロフィール】

鴨川シーワールド職員として運営に尽力。鴨川市に請われて鴨川市リフレッシュビレッジ事業の事務局長として大山千枚田保存会、鴨川市農林業体験交流協会を立ち上げる。同会みんなみの里事務局長に就任し、「日常を売る」をコンセプトに鴨川産の農林漁業生産物（鴨川ブランド）の対面販売と地域文化を売り物に、全国的に知られる総合交流ターミナルとして発展させる。道の駅、「オーシャンパーク」も経営。

平成20年農林水産大臣「地産地消の仕事人」に認定。

平成21年千葉県農林水産功労者表彰受賞

■里山活動事例発表 15:00～

- ▶ 鹿野山愛彩の会（遊歩道の整備など鹿野山のにぎわい創出）
- ▶ マリポーサ（東日笠を拠点に、体験農場など多彩な活動）
- ▶ NPO法人ハナノモリ（花咲く木を植え、ミツバチ目線で里山保全）
- ▶ まちづくりエーション（三舟山・久留里等で地域参加型まちづくり）
- ▶ キミクリ2016（理工系学生による新たなまちおこしの実験）
- ▶ 亀岩の洞窟・亀の子会（SNSで大ブレイク亀山の清水溪流広場）

■意見交換 16:30～

■閉会式 17:00

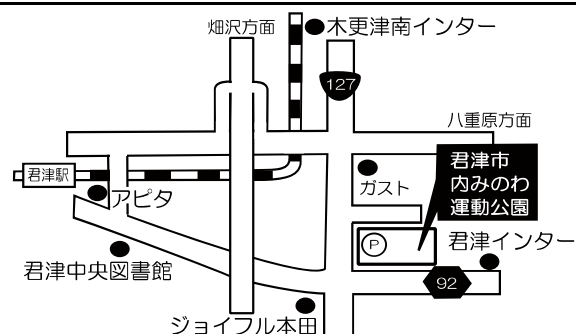
里山テント村 9:00～

- ・どんぐりストラップ作り（無料体験）
- ・盆栽づくり（無料体験）
- ・大鷲パイヤ茶の試飲と販売
- ・房総産ハチミツ販売
- ・炭、木酢液、銀杏の販売
- ・黒文字楊枝の実演と販売
- ・コーヒー、小物販売 などなど

きみつ里山活動ネットワーク

- 結成** 平成27年5月23日
- 趣旨** 地域や里山にかかわる活動を展開する団体・個人が相集い、交流し、提携して、里山（地域）のにぎわいと、活力を生み出し、生き生きとした地域を作り出し、未来に引き継ぐ活動を展開します。
- 経緯** 平成26年5月18日、「里山・裏山・命山」をテーマに「第11回里山シンポジウムin君津」開催し、延べ500人の市民、団体が参加のもと「ちば里山宣言in君津」を採択した。翌27年5月「君津の里山のにぎわい」をテーマに里山活動発表交流会を開催する。参加者で結成総会。
- 活動** 主旨に賛同する個人・団体・企業の参加により、「人が集い活力あるまちづくり」（君津市健康都市宣）に協賛し、里山と地域の活性化に努めます。「文化のまちづくり市税1%支援事業」の採択を受け、活動を積極的に進めています。

会場：内みのわ運動公園市民体育館



里山に託す私たちの未来

「君津の里山のにぎわい」

きみつ里山活動ネットワーク
代 表 鈴木 宗男



天高く馬肥ゆる秋、皆様にはお変わりなくお元気な姿を拝見し、同慶の至りであります。本日「君津の里山のにぎわい」に、多くの方々のご参集をいただき、主催者を代表致しまして深く感謝申し上げます。

私どもは、一昨年第11回「里山シンポジウムin君津」を開催し、昨年は「君津の里山のにぎわい」と題して、市内の里山関係諸団体の活動発表と交流を推進してまいりました。

「きみつ里山活動ネットワーク」はこれらの蓄積の中で、結成されました。今回、君津市都市緑化祭に参加する形で、「君津市文化のまちづくり1%支援事業」の支援を受け、ちば里山センターと共催し、「里山に託す私たちの未来・君津の里山のにぎわい」を、皆様のご協力と御理解のもと、このように多くの方々の参加のもと開催できますことは、誠に喜ばしく、重ねて感謝申し上げます。

「きみつ里山活動ネットワーク」は里山や地域に関心ある市民、そして活動団体が自主的に参加し、みんなで運営し、ともに支えあい、励ましあい、自分たちの為に成る活動を展開する団体となることを目指し、誰もが入って良かったと思う組織に育て上げる、そのような組織でありたいと思っております。

さて、我が国土の半数以上を占める、森林、里山の活用に多くの期待が掛けられて居ると共にこの荒廃した・森林、休耕田・等・里山の再生、自然エネルギーの活用は、国・県はもとより、我が君津市においても今や待ったなしの事柄ではないかと考えています。

我々地域住民とし自然資源の活用に関心を持ち、自然と接し行動に移す事が大きな力となり行政機関と力を合わせ、地域、街づくりにも寄与できる事だと考えております。

国際にも経済情勢変動が激しい昨今ではありますが、自然と環境への関心は国際的にも大きく高まりつつあり、自然資源の活用、空気の浄化、安心して飲める水源の確保、等、等、多くの問題を残しつつも、一步一步、前に進んでおります

今回の「君津の里山のにぎわい」は、まさしく足元から、持続可能な社会、持続可能な生活スタイルを志向していこうとする個人、団体の交流と知恵の出しあいの場であります。基調講演「地域の誇りと日々の生業を売る」と題し、長く地産地消を基軸に地域の活性化にご尽力され、全国的に活動されている清水さんをお願いし、地域の経済を生かす活動に役に立つ講演をお願いしております。ご期待ください。さらに市内6団体の方々に活動事例の発表を御願ひしております。ともに大いに学びあい、励ましあいたいと考えます。

君津市、ちば里山センター、君津造園建設業協同組合はじめ、多くのみなさのご協力に深く感謝申し上げます、ご挨拶と致します。

「君津の里山のにぎわい」里山活動

楽しく・深め・つなげよう

NPO法人ちば里山センター
理事長 金親 博榮



本日は、「君津の里山のにぎわい」に、ようこそお越し頂き、ありがとうございます。
この企画は、千葉県の「ちば里山LIFE体験交流事業」のプログラムときみつ里山活動ネットワークの共同事業として、君津市「文化のまちづくり」1%支援事業のご支援を頂き開催されるものです。この体験交流事業は、千葉県に首都圏等から、観光や居住する人を呼び込むため、里山の素晴らしい体験を通して、理解を促進していこうというものです。

また本日の企画運営については「君津里山活動ネットワーク」並びに「君津市造園建設業協働組合」様の、ご尽力の賜物と感謝しております。

実は本日、私も、非常に嬉しく感じておりますのは、この開催に至る前段階から、いささか関与していたものの一人として考えているからです。顧みますと平成15年本県での全国植樹祭の開催時に、全国の先駆けとなった「千葉県里山条例」が施行されました。この趣旨を受け市民が主体となり、行政が支援する形で「里山シンポジウム」を初めて開催したのが2004年の上総アカデミアでした。以来13年間、県内各市との協力によって実現してきた「里山シンポジウム」の成果の一端を見る思いがあるからです。

今日「里山」とは、山林に加え、田畑、水辺をも含むエリアを対象として、農林業の生産の場であると同時に、多様な生き物の生育空間や景観形成、防災や気象緩和等にも大きな役割を果たす場として認識されるものとなっています。国際的にも、「SATOYAMA」として、普遍的な用語となってきました。このシンポジウムは、毎年開催して、今年13回目を南房総で開催するに至っています。

里山の保全・整備は、昔から土地所有者に委ねられてきましたが、今や、適切な役割分担の下に、県民全てがこれに関わり、余暇や教育に活用できる場として利用し、人と里山との新たな関係を築く時代となりました。

一般市民の里山活動は、多分野にわたる、自発的ないわゆる「ボランティア活動」の一分野として、大きく発展する事となり、住民参画の地域づくりの典型ともなっています。

2011年の第8回いすみシンポジウム以来、市原、君津、山武、そして南房総各市で、開催した事を契機に、地元の団体、行政による地域おこしの視点から活動団体の組織化が次々と図られ、ルールが敷かれつつあります。そのトップランナーが、千葉県内1位の森林面積と森林率2位の君津市であります。

里山の活性化は、多くの自治体で、地域全体の活性化の基盤で在るとの認識ができてきましたが、工業、農業、林業と観光の都市、君津市が、豊かで楽しい市民生活の場として、一層の発展を目指し、里山を生かしながら、益々充実、発展される事を期待して、開会の際しての、挨拶と致します。

「君津の里山のにぎわい」

基調講演：「地域の誇りと日々の生業(なりわい)を売る」

～房総の立地と豊かな農・林・漁業生産力こそ宝だ～

講 師 清 水 宏

鴨川市農林業体験交流協会 事務局長
農林水産大臣選定 「地産地消の仕事人」
農林水産大臣任命 ボランティア・プランナー



講演要旨

1. 「地域資源を活かした都市と農山漁村の交流」
 - ・「日常の生活」が資源(非日常のイベントを売るのはやめましょう)
 - ・「田舎の誇り」は都会に無い宝物を見つけること(魅力の発掘と育成)
 - ・「地域資源」の捉え方(自然・景観・行事・芸能文化・食文化・人的資源?)
 - ・「地域資源」＝「地域の魅力」の育て方(例)文化資源を観光資源に
 - ・「自分たちの地域のキーワード」を売る

2. 「田舎の求めるものと都会の求めるもの」
 - ・グリーン・ブルーツーリズム
 - ・都市住民の余暇(時間を消費させる)



3. 事例紹介「鴨川市の都市農村交流事業」みんなみの里の取り組み
(具体的にはパワーポイントで)



4. 日々の生業(なりわい)を売るヒント

※何でも経済効果や効率追求に走らない精神文化を持とう！

- ・ 過疎・高齢化・後継者難+3K 的労働環境を楽しむ(逆説思考)
- ・ 川上と川下の交流の輪をつくる(相互依存を高める)
- ・ 食材・食文化・食の安全・自給率の向上のためのオーナー制度の活用
- ・ 歴史文化・伝承芸能の活用による交流の仕組み作り
- ・ 田舎暮らし体験の受け入れ(民泊・援農)＝田舎の知恵のお裾分け
- ・ 産業交流の可能性(6次産業化? 農商工連携事業化?)
- ・ 情報発信力アップ(IT活用・ロコミネットワーク)とリピーター作り

5. 「何のための」「誰のための」「誰がやる」事業なのか? よーく考えよう!

事例発表、テント村、展示の各団体と概要

1. 里山活動事例発表（6団体）

各団体15分以内で活動事例を発表します。

番号	発表団体等	活動の概要等	責任・発表者
1	鹿野山 愛彩の会	最近里山活動を開始した。鹿野山を中心に、遊歩道や自然観察路の整備を行いにぎわいを創出しています。	小出 勝美 石井 昭一
2	マリポーサ	東日笠地区を拠点に、体験農業や古民家を利用した宿泊体験など多様な活動をしている。また、農業に新しい視点を導入し農業振興を進めています。	古木 真也
3	NPO 法人ハナノモリ	君津市、木更津市、袖ヶ浦市を中心に里山保全活動や植樹活動を行い、里山の樹木の蜜腺を中心とした養蜂を行っています。	鈴木 一 堤 克仁
4	まちづくりエーション	まちづくりエーションでは、地域参加型のチームワークを創り出し、生まれ故郷の素晴らしさを再発見し新しいカルチャーをエーションする思いで活動しています。	大野 修平
5	キミクリ2016	専門的な知識を社会課題の解決の場で実践したいという意思を持った大学生や新社会人などの若者を対象にアイデアコンテストを実施することで、今までとは違った角度から解決策を見出す。里山の魅力にも着目して活動しています。	君津市役所
6	亀岩の洞窟・滝（亀の子会）	洞窟の全景、亀岩の写真、ハード型が形成された春秋の写真などがSNS投稿に投稿され、愛のパワースポットとして爆発的な反響が広がる。里山の景観の魅力を地域おこし・活性化に繋げています。	伊原 弘晃

※後半に意見交換会があります。

2. テント村部門（屋外テント：9張）

内みのわ運動公園市民体育館の中庭にテントを設営して実演販売等を行っています。

森林インストラクター 内山緑地ときみつのさんぽ道	どんぐりストラップ作り（無料体験） 盆栽づくり（無料体験）
大鷲里山ファーム協議会	大鷲パイヤ茶の試飲と販売
NPOナナノモリ	房総産ハチミツ販売
浜子の歴史と景観を守る会	炭、木酢、銀杏等の販売

久留里伝統黒文字楊枝伝承事業の会	黒文字楊枝の実演と販売
まちづくりエーター	コーヒ、小物販売
農文協（法人農山漁村文化協会）	里山、農業、教育等の図書販売
三幸（株）	飲食物 ※
たびだちの村ふれあい通り	パン ※
南園芸	ラベンダー香袋作り教室（体験） ※

※ 都市緑化祭参加団体

3. パネル展示部門（写真展示：パネル16枚）

内みのわ運動公園市民体育館の玄関ロビーにて展示しています。

団体・個人名	内容	出品者名・連絡先（敬称略）
三舟山写真同好会	三舟山の四季	高瀬一利 永嶋美地子 岡野充子 高村雅雄 多良邦章 鈴木基之 牧野 正
鈴木照雄	里山から見える富士山	鈴木照雄
さんぽ道	里山のヤマザクラ	内山緑地建設(株)観光事業部
周南公民館	カヤブキ屋根の葺替え	周南公民館事業
千葉県立 清和県民の森	県民の森の四季	千葉県立清和県民の森 責任者：座間 透
松本一二	馬登のシダレザクラ	松本一二
浜子の歴史と景観を 守る会	里山保全活動の紹介	花島正信
鹿野山愛彩の会	鹿野山の幻の滝	山中 篤
この花咲くや会	馬登のヤマザクラ	小池英憲
伊原弘晃	神聖な亀岩の洞窟・滝	伊原弘晃
大道沢公園緑化プロジェクト準備会	公園のホタル生息可能性の調査活動	大道沢公園緑化プロジェクト準備会 （連絡先山下順一）

4. 津市都市緑化祭

当日は、内みのわ運動公園市民体育館前庭にて君津市都市緑化祭が同時開催

- ・ ミツバツツジや草花の苗無料配布

1回目 9：30 2回目 10：30 3回目 11：30

- ・ 垣根づくり講習会が行われます。

10：00～12：00

- ・ 君津市消防音楽隊コンサートが開催されます。

10：00～

- ・ 山里の庭（坪庭）展示



「鹿野山・愛彩の会」の紹介

(鹿野山の自然と文化を彩る会)

私達の会は、千葉県生涯大学校 南房学園 地域活動学部の仲間で、モミジの苗を植樹したのを切っ掛けに、2016年3月に事務局所在地を「鰻の津多屋」にして、活動に賛同してくれる方達と「鹿野山・愛彩の会」を設立しスタートしました。(URL: <http://aisaiclub-kanozan.jimdo.com>)

花咲く、彩の鹿野山にしたい!

鹿野山が昔のように賑わいを取り戻せたらと活動を始めました。

昔、鹿野山の春は桜の花があふれていました。でも病気で枯れてしまいました。

もう一度ピンク色の花を咲かせ、そして秋には真っ赤なモミジが彩ったらどんなに素敵でしょう。

一緒に楽しみながら植栽しませんか!

鹿野山をフィールドに植栽や下草刈りなどの作業をしながら、

四季折々に彩を感じられ、楽しく憩いの場となるような郷土づくりを目指しています。

5年、10年先の鹿野山が美しく変貌するのが楽しみです。



<活動の内容>

- ・里山の整備（下草刈り、枯れ枝の除去、遊歩道の清掃など）、植樹、山野草の植え付け
- ・学習会（園芸、森の観察、郷土史など）
- ・周辺秘境（古道、滝など）の探検
- ・研修旅行



- * お試し参加は、いつでも大歓迎です。お気軽にいつでも参加して下さい。作業道具は会で用意してあります。

活動開始	会員数	活動頻度	主な活動場所	連絡先
2015年(H27)3月	27名と2法人 (2016年9月現在)	2回程度/月の作業と 3回程度/年の学習会	鹿野山神野寺周辺 の里山	●●●●●●●●●●

「植栽や遊歩道整備などによる鹿野山のにぎわい創出に向けて」

(2015年10月～2016年9月)

■主体団体 鹿野山・愛彩の会

■発表内容 この1年間の主な活動の紹介

山仕事の素人集団のできる事は、草刈りとゴミ掃除だが、将来の楽しみな植栽と今を楽しむ食文化の実践と色々な学習会を取り入れ活動の持続性を高めている。

① 愛彩の小径に竹灯籠を設置 (2015年12月)



ホテルから神野寺への近道作りに併せて孟宗竹で作った灯籠を道の両脇に設置した。12月29日に万灯会と通り初めを行い、初詣の人達に重宝がられた。

② 九十九谷公園駐車場周辺への桜の苗木の植樹 (2016年2月)



日本さくらの会より入手した桜の若木50本を植樹するにあたり、商工会議所や市役所の方達も参加して大勢での植樹会となった。

風当たりの強い場所だが、年間を通して訪れる人がいるので、サクラの開花時期には楽しみな場所になることでしょう。

③ 洞坂の階段の再整備（2016年5月）



土囊

の階段が崩れて歩き難かった。

中古枕木を利用して整備し直した。

君津市まちづくり市税1%支援事業の助成を受け、神野寺前庭東側にある生活道路「洞坂」の階段再整備を行った。この道は、阿久留王塚方面から繋がる古道の一部だが、観光客が散策にも利用する遊歩道でもある。春先には清楚なミツマタの花が多く見られる。



完成後、近所の方達と一緒に安全祈禱をしたのちに使い始めた。

④ 公開学習会の開催

- ・2015年12月「鹿野山で探す冬の装い」（広島さん）
遊歩道にある山野草を観察し、在来種と外来種を知って将来保存管理する品種を学習した。春に2回目を行い秋にかけての対応を学んだ。
- ・2016年3月「お山に花を咲かせましょう」（佐野さん）
フルーツから花主体へと観光資源を変化させながら市外からの客勇知を進めている平成のはなさか爺さんの経験談を聞いた。
- ・2016年8月「鹿野山の発祥と信仰」（田中さん）
現在も垣間見ることが出来る習慣や遺構について、古代阿久留王の時代まで遡り推察した興味深い内容で、50名を超える人達が大塚屋旅館に集まった。
この地に関して理解を深めることで、親しみを持って活動できるようになる。

里山を丸ごと利用した新しい複合型ビジネスモデルの紹介

■発表者 古木真也

■主催団体 任意団体「マリポーサ（以下、略してマリポ）」

■発表内容



「マリポ」は、今までの生活がもたらした地球環境や社会環境を見つめ直し、これからの生活が、本当の意味で「豊か」になるためのしくみを創造していく任意団体です。地域活性化や農業、里山開発などを切り口にした、新たな「ソーシャル」×「ビジネス」の両モデルとともに豊かな生活が広がっていくことを目指しています。

マリポ公式ウェブサイト (<http://www.maripo.net>) 「マリポとは」から抜粋。

マリポのビジネスモデル

「自然あふれる里山で暮らしたい」

都会の生活に疲弊して、多くの人が癒しを求める中、里山暮らしを望む人が増えています。

しかしながら、現実的には仕事がないなどと、実際に移住するにはたくさんの課題があります。

マリポでは、そんな人たちのために、里山で豊かに暮らすビジネスモデルを作り提唱しています。

マリポのビジネスモデルは複合経営

農薬や除草剤を利用してスケールメリットを生かした農産物の栽培は持続可能ではないように思えます。しかしながら、有機栽培で収益を確保するのは至難の業です。そこで、厳選した作付け品目を農薬も化学肥料も使わずに大切に育てた農産物を、イベントによる集客や広報、空き家を利用したゲストハウスを使って農業体験や援農など農を中心に様々な仕掛けを使ってトータルで収益を上げるのがマリポスタイルです。安定した収益を元に、イベントなどを通して仲間達と里山を持続的に守り、本当の意味での豊かな暮らしを目指しています。

農園事業（マリポ農園）

マリポ農園は千葉県君津市の清和という山間部で、以下の3つのキーワードをもとにこだわり農産物とその加工品を生産しています。

【Harmony】ここには、サルやイノシシをはじめたくさんの野生動物がいます。人間にとって都合の悪い虫や草、微生物もたくさんいます。でも、彼らと共存する方法を日々模索しています。「全滅させない」そして「やられてもやりかえさない」。

【Biodiversity】マリポ農園では微生物などの多様性を最重視しています。多様性こそが最も強い環境を作ることを知っているからです。

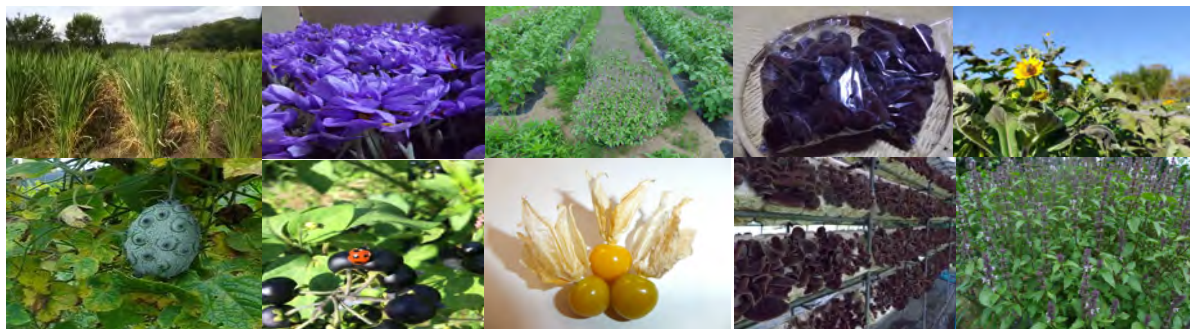
【MOTTAINAI】規格外野菜や通常捨てられてしまう部分を使った加工品の開発にも力をいれています。

例) きくらげ：きれいな湧き水と山間部特有の温度差を利用した良質のきくらげ栽培。

マコモダケ：休耕田を利用して、高級食材であるマコモダケを栽培。

ヤーコン：芋の部分を生果として販売するだけでなく、茎葉をお茶として利用することによる付加価値化。

その他、ホーリーバジル、ハックルベリー、ムクナ豆、サフランなど珍しいものを中心に栽培。



加工品の開発：売れる商品作り

例) ヤーコン茶：おいしさと機能性にこだわったお茶。成分分析や機能性試験まで行い、ラベルデザインにまでこだわった逸品。ヤーコン茶は、高い機能性が注目されているにも関わらずその特有の苦味から商品化になかなかいたらずに捨てられていたものです。マリポ農園では、キーワードである「MOTTAINAI」の精神で長い年月をかけて試行錯誤してやっとおいしいヤーコン茶の開発に成功しました。フラクトオリゴ糖をはじめとした成分の自然な甘さと、焙煎の香ばしい香りが今までにないお茶の味わいを醸しだしています。



イベント事業

農業体験やマリポ農園で栽培された無農薬無化学肥料の野菜などを利用。

イベントでの採れたて野菜の直売や試食などを通して、リピーターを獲得。

例) 子供のための本気の農業体験合宿：子供達が自ら収穫、袋詰めしたものを自分達で販売まで行う。栄養価を調べたり、調理法を学ぶ料理教室などがセットとなり、自分達でどうすれば付加価値をつけて売れるのかを考える仕組みになっている。



鶏の解体ワークショップ：普段食べている食肉がどうやってできているかを考える場を提供する。実際に絞めるところから行い、最後はおいしく命をいただくワークショップ。

その他、味噌作り、そば打ち、竹のドーム作り、畑ヨガ、醤油作り、各種農業体験などバラエティーにとんだイベントを定期的開催。



空き家を利用した古民家風ゲストハウスとイベントレンタルスペース

急成長を見せるインバウンド（外国人観光旅行）をターゲットに、古民家風家屋を改装して、ゲストハウスをオープン。日本伝統文化のお茶を体験できたり、浴衣レンタルサービスによる浴衣で里山歩きなど外国人のみならず、都会のお客様でも喜ぶオプションが充実。

16畳の広いスペースが利用可能で、ちょっとした企業研修や会議、ヨガなどのイベントにも利用可能。



また、マリポの農産物をはじめ、健康にやさしい調味料などの売店も併設。来年度をめぐりにマリポ野菜を使ったこだわりのカフェもオープン予定。

お問い合わせ

〒292-1164 千葉県君津市東日笠 509 TEL/FAX 0439-27-0214

mail: mariposa@maripo.net HP: <http://www.maripo.net/>

fbページ: <https://www.facebook.com/maripo.net/>



ミツバチと共生する里山作りを目指して

■発表者：鈴木 一（NPO法人 ハナノモリ理事長）

■主催団体：NPO法人 ハナノモリ

■発表内容



私たちは、千葉県君津市、木更津市、袖ヶ浦市を中心に里山保全活動や植樹活動を行っている市民活動団体です。昨今、新聞やテレビのニュースなどで報道されているように、いま日本の里山からミツバチなどの生き物が急激に姿を消しています。この現象は千葉県では2009年から始まり、千葉県だけでなく、日本全体、いや地球規模での大きな問題となっています。

ミツバチがいなくなると、花や果樹などの作物の受粉ができなくなり、人間の食料問題にとって重大な問題を引き起こすだけではなく、自然界の生態系にも大きな影響をもたらします。ミツバチが激減している原因は、いまだに明らかにされてませんが、里山の環境破壊や、水質汚染、農薬や電磁波の問題など、複合的な問題が原因であるとされています。

また、戦後、日本の里山は、日本在来の落葉広葉樹が杉やヒノキなどの針葉樹に取って変わり、人の手が入らず、そのほとんどが放置された状態にあります。本来の里山は、人間の生活と密着しており、人間と自然とが共生する事で持続可能なものとなっていました。このまま、里山が放置され続けるということは、人間と自然との共生も持続できなくなってしまうです。

ミツバチという生き物は、まさに里山の象徴であり、人間と自然とを繋ぐシンボルです。放置された里山に蜜源となる落葉樹を植樹することで、里山に多様性が生まれ、豊かな生態系が生まれます。また、耕作放棄地に花の種を蒔くことで、里山の景観が保たれ、人が集まり、そこにコミュニティが生まれます。ミツバチと共生できる里山は、人間にとって持続可能な社会を約束してくれます。

NPO法人ハナノモリは今年の春に千葉県から認可をいただいたばかりの小さな団体ですが、蜜源植物の苗木作りや、耕作放棄地に花の種を蒔くなど、いまできることから一步一步進んでいるところです。温暖で、緑豊かな君津の森が本来の豊かさを取り戻すために一生懸命頑張っています！

ここから始まる未来に期待を抱く!!

まちづくりエーションは「まちづくり×クリエイーション」を合わせた造語となります。そこで“まちづくり”と聴くとどんなイメージをしますでしょうか。

「まち」を「つくる」の意。

まちづくりエーションが考える「まちづくり」を以下にまとめました。まちづくりと聴くと、地域の特産品を生かした商品作り、古民家を再生したカフェやゲストハウス、移住者の増加などそれなりの字面が上げられます。

確かにそれらの資産を活かすと「まち」に多くの人が流れて、「まち」のPRや売り上げの増加が見込めそうです。

しかしそれが本当に「まち」を「つくる」ことになるのかは別の話になります。

地域との連携体制を取る。

「まちづくり」って何か…。いま世間でいわれている「まちづくり」をおこなう団体に昔から住んでいる地域の人って入っているのか。

一般的にコンサルティング会社と称する企業が存在し、3日間ぐらいで資料を作成し「里山再生」「古民家の民泊化」などの語呂合わせを並べ、いざ実行したら一発屋で終わるケースが多々ある気がします。

自らの手でクリエイイトする!

そもそも「まち」とは、その「まち」の「人」のためのものだと思います。その「まち」の「人」は果たして「里山再生」「古民家の民泊化」をコンサルティング会社がおこなったところで、生きる中での経済効果はあるのか。

まちづくりエーション

コンサルティング会社がいなくなったら自分達の手で同じことができるのか。いろいろな疑問がある中、実際は外側にしか目が向いていないように気がします。

だからもう少し「まちづくり」がまちのひと

のためのものになればと考えています。まちづくりエーションでは、「まち」＝「人」で地域参加型のチームワークを創り出し、生まれた故郷の素晴らしさを自らが強調でき新しいカルチャーをクリエイションする思いがあります。

笑顔のために汗を流す。

地域のおじいちゃん、おばあちゃんが「休む暇もねえ!」と笑う顔を見ることが「まちづくり」の、ひとつのカタチなんだろうなと思います。

by まちづくりエーション (愛称: まちクリ)



まちづくり活動×アジェンダ

まちづくりエーションがおこなっている活動を下記にまとめました。
現在は千葉県君津市を中心に活動をおこなっております。都内からも来場される方も増加しており、まちづくりエーションの活動を切っ掛けに君津市に移住をして下さった方も増えています。

Mifuneyama Marché 里山の魅力に迫る三舟山マルシェ



里山から流れる自然の音楽、大自然の景色が広がる三舟山にマルシェが誕生しました。出店するのは、君津市を中心としたファーマーズ、フード、ハンドメイド作家のみなさんです。旬の時期に採れたフレッシュなお野菜、果物、加工品を生産者と会話をしながら楽しめます。遊ぶ・食べる・学ぶ・体験がひとつになったかたちが三舟山マルシェです。

URL : <https://www.facebook.com/mifuneyama/>



生産者と消費者をつなぐ三ツ星トラック市

三ツ星トラック市は“生産者の手から消費者の手へ”と作り手の思いを直接消費者へ届けること、そして収穫直後の野菜、果物をトラックに乗せたまま販売するスタイルです。生産者が収穫直後の新鮮な作物を消費者に届けるスマートな直線が、星で例えるオリオン座の“三ツ星”の直線と同じことから“三ツ星トラック”となりました。生産者さんの顔が見えて旬の作物が楽しめるトラックの集いです。

URL : <https://www.facebook.com/mitsuboshitruck/>



久留里 商人宿復活プロジェクト (大島屋旅館)

商人宿の歴史は、江戸時代以前にまで遡ります。通常の宿は宿泊のみの利用となりますが、商人宿は軒先で商売ができる宿となります。商人はそこで稼いだお金を宿代にし、生計を立てていました。そんな商人が次から次へと宿を転々とするのが商人宿です。

URL : <http://akindoyado.com/>

まちづくりエーションに参加しませんか？



運営団体：まちづくりエーション
：愛称：まちクリ”

まちづくりエーションでは、地域参加型のチームワークを創り出し、生まれた故郷の素晴らしいさを自らが強調でき新しいカルチャーをエーションする思いがあります。

お問い合わせ先は各イベントのサイト側で行っております。

キミクリ2016

(再構想、共創造・・・地方創生に理工系の頭脳)

地域課題解決をテーマとしたアイデアコンテスト「キミクリ」について

- 発表者 君津市企画政策課
- 主催団体 君津市
- 発表内容

○「キミクリ」名前の由来

「君津市」の“キミ”と「リ・コ・クリエーション(再共創)」の“クリ”から「キミクリ」と名付けられた。

○キミクリのねらい

専門的な知識を社会課題の解決の場で実践したいという意思を持った大学生や新社会人などの若者を対象にアイデアコンテストを実施することで、今までとは違った角度から解決策を見出すこと。また、活動を通して新たなネットワークを形成し、地方創生の機運を高めるとともに、君津市という地域に愛着を持った人材を育成し、新たな人の流れを創出すること。

○活動メンバーと取り組んでいるテーマ

慶應義塾大学・千葉大学・京都大学・横浜国立大学・宇都宮大学・東京海洋大学・東京工芸大学など様々な大学の学生及び新社会人 約20名

地元サポーター(君津市職員含む) 約20名

取り組んでいるテーマは、有害鳥獣対策・特産品の東京進出(たまごかけごはん)・鉄のまちブランディング・高齢者の食生活改善・オーガニックコスメ開発・観光資源活用・地下水の活用の7つ。



● スターティングイベント @上総地域交流センター



左上：イベント周知用ポスター



右上：廣田教授によるデザイン思考ワークショップの説明



右中：テーマ案発表の様子



右下：ワークショップの様子

大きい写真：全体集合写真
(中心は君津市長)

- 開催日： 2016年7月2日
- 参加数： 約60名
- テーマ案：食材の流通・サービス開拓/まちのイメージブランディング/観光資源の活用/有害鳥獣対策/美容・健康プロダクト開発/未知なる社会課題の解決



○これまでの主な活動内容

- 平成28年7月2日 スターティングイベント
- 平成28年7月3日 全体フィールドワーク…写真左
- 平成28年7月25日 オーガニックコスメチームミーティング
- 平成28年7月30日 買い物支援チームミーティング
- 平成28年8月11日 オーガニックコスメチーム、地下水チームフィールドワーク…写真中央
- 平成28年8月14日 鉄ブランディングチームミーティング
- 平成28年8月18日 アンケート調査（買い物支援チーム）
- 平成28年8月19日 アンケート調査（買い物支援チーム）…写真右



平成28年8月21日 アンケート調査（買い物支援チーム）



平成28年8月28日 買い物支援チームミーティング



平成28年8月31日 有害鳥獣対策チームミーティング

平成28年9月3日 鉄ブランディングチームミーティング…写真左

平成28年9月4日 地下水チームフィールドワーク…写真中央

- 平成28年9月6日 地下水チームミーティング
 - 平成28年9月7日 観光資源活用チームフィールドワーク…写真右
 - 平成28年9月10日 買い物支援チームミーティング
 - 平成28年9月18日 たまごかけごはんチームフィールドワーク
 - 平成28年9月25日 食生活改善チームフィールドワーク
 - 平成28年9月27日 食生活改善チームフィールドワーク
 - 平成28年9月27日 たまごかけごはんチーム試食会
- ※その他 skype 等でミーティングを実施



● 中間報告会 @上総地域交流センター



- 開催日：2016年9月24日
- 参加数：約60名
- テーマ：オーガニックコスメ開発／たまごかけごはん／有害鳥獣対策／鉄プランディング／観光資源活用／買い物支援／生きた水



- 左上：イベント周知用ポスター
- 右上：プレゼンテーションの様子
- 右中：発表内容に集中する参加者達の様子
- 右下：横田特任教授による全体シェアの様子
- 大きい写真：全体集合写真
(中心は君津市長)

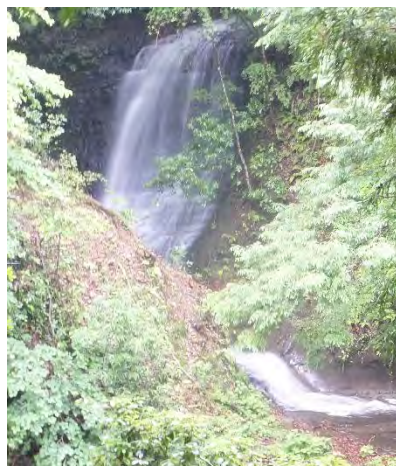


亀岩の洞窟・亀岩の滝・・・神聖なる洞窟

—まぼろしの滝が「幸福と絆の滝」に大ブレイク—

伊原 弘 晃

- 子供のころみんなで魚を採ったり、泳いだりして遊んだ淵や滝・・・今は「清水溪流広場」
- カータトンネル（洞窟・滝）・・・川廻しによって掘られた人口の洞窟と滝
- セイナザ（沢）の滝・・・大雨の時だけ沢の水があふれてでできるまぼろしの滝
- ノウミゾの滝と淵・・・水車小屋の水車を回す水路（農溝？）の脇の大きな滝



左 カータトンネル（洞窟・滝）
中 セイナザ（沢）の滝
右 ノウミゾの滝・淵

○片倉ダム（笹川湖）の建設（平成13年完成）、その後整備された「清水溪流広場」がオープンし、大きな期待が広がる。

遊歩道、四阿（あずまや）、木道、駐車場が整備され、自然を生かした優れた環境の実現。変化ある溪流と三つのまぼろしの滝があり、小魚泳ぎ、夏にはホタルも飛び交う幽玄の景色。

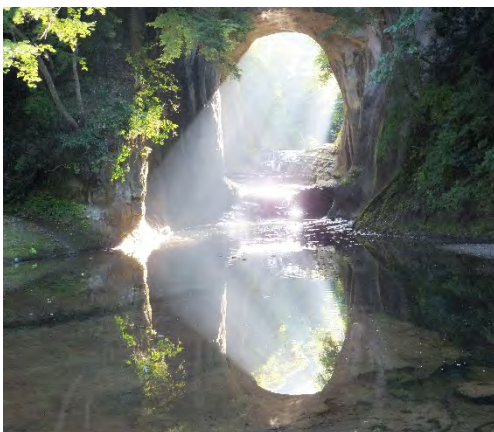
君津市の委託を受けて地元団体による施設の保守管理活動が始まる。

○この景観を自分たちが楽しむだけでなく、都会の人にも親しんでもらえたら

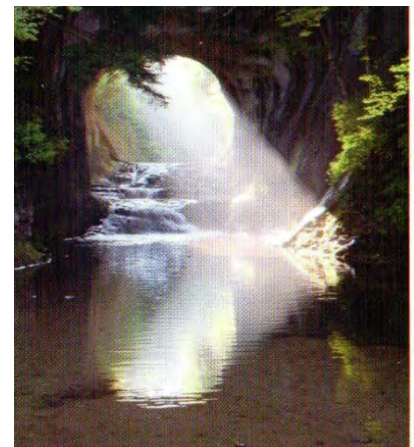
そこで始まった「素敵な景色とポイント探し」・・・朝から晩まで、一年中、カメラ片手に平成14年3月 春分の日前後の早朝に洞窟にさす陽光が見事なハート形を造ることを確認。

その時の感動は今も忘れない。

9月 秋分の日前後にも同様に陽光がハート形を確認、さっそく写真で宣伝
平成17年 洞窟の中に亀に似た岩があることを確認。しかも、水は亀の形の岩を超えて滝のように下の淵に落ち込む。そして、波紋が広がり幽玄の世界が出現する。
水の少ないときは、淵は静かに、周りの岸壁、木々や陽光が水面に映り、静



「幸運の光」三景色



寂な時が流れる。そこに鳥の飛翔が映り込むさまは、えも言われぬ。

平成 18 年頃 駐車場のトイレの外側壁に拡大写真を張り、訪問者に紹介と説明を始める。訪れた観光客が「こんなところにこんな素敵どころが」「洞窟の眺めは驚き、向こうに何か不思議な世界があるかも」「ハートの写真を見たけど、その時ここに来るときっと幸せになれるね」などの声が聞こえるようになる。

平成 23 年 11 月 『幸運の鐘』が建立される。吊り鐘は商工会議所会頭秋元秀夫様寄贈、命名は君津市長鈴木洋邦様。このころから徐々に訪問者が増加する。誰が始めたか「遊歩道の手すりに祈りの小絵馬やおみくじ」などが結ばれるようになる。

平成 27 年 10 月 洞窟の全景、亀岩の写真、ハード型が形成された春秋の写真などが SNS に投稿される。愛のパワースポットとして反響が広がる。

平成 27 年秋 亀山の紅葉、クルージングなども加えて SNS で大ブレイク。駐車場はシーズン中、いつも満杯。地元亀の子せんべい爆売れ。交通問題浮上

平成 28 年春 個人客ばかりでなく、各種大手観光会社のツアーが組まれるようになる。7 月 地主のご協力で臨時駐車場を開設。市役所の支援で「バスによる観光客のピストン輸送、臨時トイレの設置」などの応急対策が始まる。

平成 28 年 8 月 大東めぐみさんが訪れ、感動して、ここは「親愛の滝」「愛が溢れる滝」などの愛称を提案いただく。

現 在 連日、通常駐車場はいつも満杯。ツアー客の増加、引き続き人気沸騰



人溢れる洞窟への階段



『幸運の鐘』平成23年11月建立(命名:君津市長)



ハート型を造る姉妹

○これから

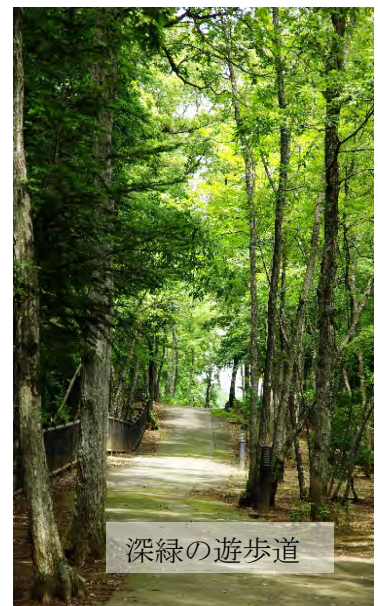
- ・ 当面する観光客への対応
- ・ 継続した観光客確保のための対応
- ・ 行政の支援。商工会議所、観光協会の支援
- ・ 地域の受け入れ態勢の強化と持続的活動



5~7月 ホタル乱舞する木道



モミジ映える木道



深緑の遊歩道

「君津市の公園・緑地」 ・ ・ 市民に身近な憩いの場

※ この項は、里山活動事例発表会（里山のにぎわい）を都市緑化祭に合わせ、内みのわ運動公園・君津市民体育館で行うにあたり、市民生活にとって重要施設である公園・緑地等について、里山活動にも大きくかかわる関係から資料を掲載します。資料は市都市整備課から提供いただきました。

○公園・緑地について

公園や緑地はなぜ必要なのか

- ☆都市をつくるときの中心部となるため
- ☆連続した市街地をつくらないため
- ☆都市気象を緩和するため
- ☆住み良い環境をつくるため
- ☆住民のコミュニティをはかるため
- ☆健康の維持増進を助けるため
- ☆都市防災のため
- ☆自然環境・生物資源の確保のためなど、・・・たくさんあります。

公園や緑地の種類

- ☆目的をもってつくる公園
 - 国民公園（皇居外苑・新宿御苑など）
 - 都市公園⇒身近な公園（例：大野原公園など）
 - 【一般に公開する公園】
- ☆自然景観などを保全するための公園
 - ・ 国立公園 ・ 国定公園 ・ 自然公園
 - 【制限のある公園】

都市公園の種類及び設置基準

都市公園（営造物公園）には、街区公園・近隣公園・地区公園・総合公園・運動公園・広域公園などがあり、次の種類や設置するための基準があります。

君津市には、街区公園はじめ89箇所の都市公園があります。

☆大規模公園（大きな公園）・・・本市にはない。

広域公園 主として一の市町村の区域を越える広域のレクリエーション需要を充足することを目的とする公園で、1箇所あたり面積50ha以上を標準として配置する。

☆都市基幹公園

総合公園⇒君津市にはありません

【休息・観賞・散歩・遊戯・運動等に利用する公園】

運動公園（例：内みのわ運動公園）⇒1箇所

【運動に利用する公園】

☆住区基幹公園

街区公園（例：中野中央公園・中野南公園など）⇒72箇所

【250mの範囲内に居住する者が徒歩で利用する公園】

- 近隣公園(例:大野原公園・塚田公園など)⇒8箇所
【500mの範囲内に居住する者が徒歩で利用する公園】
- 地区公園(例:かずさ4号公園)⇒1箇所
【1Kmの範囲内に居住する者が徒歩で利用する公園】
- ☆特種公園(風致公園・動植物公園・歴史的公園など)
- ☆緩衝緑地(例:君津緩衝緑地など)⇒2箇所
【公害の防止や緩和及び工場などからの災害を遮断するための緑地】
- ☆都市緑地(例:小糸川沿岸緑地など)⇒3箇所
【自然環境の保全や都市景観などのための緑地】
- ☆緑道(例:大道沢緑道)⇒1箇所
【災害の時の避難路確保などのための緑道】

その他の公園」

- 君津市には都市公園の他に市立公園16箇所、農村公園6箇所があります。
- また、子供の遊び場が10箇所あります。
- ☆市立公園(例:亀山湖畔公園など) 16か所
- ☆農村公園(例:久留里市場農村公園など) 6か所
- ☆子供の遊び場(例:中野東前子どもの遊び場など) 10か所

公園・緑地の維持管理

- 公園や緑地を、一定の状態を守っていくには、いろいろな管理が必要となります。
- 次のようなことを考慮し、作業を実施しております。
- ☆利用者が使いやすい状態でなくてはならない。
- ☆利用者が安全に使うことができなくてはならない。
- ☆動植物や生物の環境を守らなければならない。
- ☆少ない費用で大きな効果を上げなければならない。

公園・緑地の管理者及び管理業者

公園・緑地の管理者は君津市ですが、実際に草や芝を刈ったり、ゴミを集めたり、植木の剪定をしているのは、造園業者や君津市シルバー人材センターなどです。

公園・緑地では、次のことを守りましょう

- ☆ごみや汚物を捨てない。 『ゴミは持ち帰りましょう』
- ☆犬のフンを放置しない。
- ☆ゴルフの練習をしない。 『マナーを守りましょう』
- ☆人に迷惑をかけない。
- ☆施設(遊具や植木など)をこわさない。

*ゴミ箱を置いてある公園もありますが、近年大部分は撤去しております。

「君津市の森林、林業の概要について」

平成 27 年 11 月 19 日の「まちづくりふれあい講座」から抜粋

1. 君津市の現状と課題

君津市 総面積 31,883ha (県内 2 位)
 うち森林面積 20,637ha (総面積の 64.7%)
 うち千葉県南部地域森林計画に位置付けられた
 民有林 18,287ha
 (※民有林：国有林以外の山林)
 うち人工林面積 6,621ha (人工林率 36.2%)
 うち 50 年を超えた森林
 3,547ha (53.6%)
 (※標準伐期齢 スギ 45 年)



樹種別の立木の標準伐期齢

樹 種					
スギ	ヒノキ	マツ	その他 針葉樹	クヌギ	その他 広葉樹
45年	50年	40年	50年	15年	制限林等のみ 20年

2. 森林施業の推進方針に係る基本的な考え方

森林所有者の把握：森林の土地所有者の変更の届出等

情報の収集・協力：森林所有者、森林組合等との協力

施業・整備：施業の集約化や路網整備を進め
 各種事業の活用

※H27 実施事業 サンプスギ林再生資源循環促進事業
 県単森林整備事業

3. 森林施業の合理化に関する基本方針

現 状

- ・ 木材価格の大きな上昇が期待できない
 - ・ 森林所有者の施業意欲の低下
 - ・ 境界管理等不十分
- ⇒ このため、施業効率化を図ることは困難

方 針

- ・ 森林組合による集約化施業
 - ・ 路網の整備や境界管理の推進
- ⇒ 森林施業の合理化を図る



4. 森林整備を通じた地域振興に関する事項

ミツバツツジ保護条例の制定（平成8年7月1日施行）

- ・ ミツバツツジ保護地域の指定
 - くじら島保護地域（君津市宿原地先）19,753 m²
 - とよふさ保護地域（君津市豊英地先）595,726 m²
 - くるり保護地域（君津市久留里市場地先）1,798 m²
- 植樹祭（4月）、景観整備・管理、保護監視員による巡視等

三舟山（君津市小香地先 市有地）

- ・ 倒木撤去、除草作業による管理等
 - ・ 展望台等の整備・維持管理
- お花見ウォーク（4月）、森林体験教室等



「君津市の農業の概要について」

平成27年11月11日実施の会議資料（君津市農林振興課資料）から抜粋しました。
以下の5項目のうち、1の君津市の農業の概要についてのみ資料としました。

1. 君津市の農業の概要について
2. 農地の集約化（農地中間管理事業）
3. 農業後継者の育成
4. 手軽にできる家庭菜園について
5. 農薬の使用について

1. 君津市

面積 : 318.83 km²
人口 : 87,581人（平成27年9月30日現在）
世帯 : 38,407世帯（平成27年9月30日現在）
気温 : 年平均気温14.1度
名産 : 米、たまご、カラー、自然薯、小糸在来（大豆）



2. 君津市の農家世帯及び販売農家数は減少している。

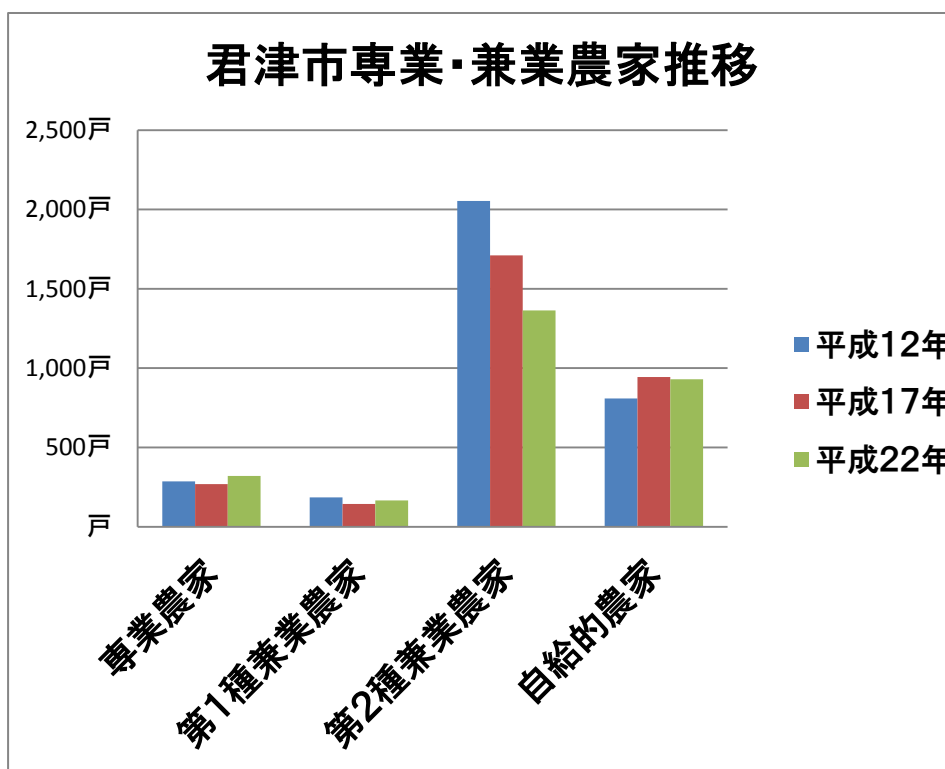
	平成12年	平成17年	平成22年
市世帯	32,964戸	32,364戸	33,914戸
農家世帯	3,334戸	3,068戸	2,781戸
市人口	93,364人	90,977人	89,166人
販売農家	2,525人	2,124人	1,851人
基幹的農業従事者	1,969人	2,012人	1,995人

3. 経営耕地面積の全体は 2,194ha。全体的に減少傾向。

	平成12年	平成17年	平成22年
耕地面積	2,359ha(100%)	2,276ha(100%)	2,194ha(100%)
田	2,065ha(87%)	1,934ha(85%)	1,843ha(84%)
畑	248ha(11%)	245ha(11%)	263ha(12%)
樹園地等	46ha(2%)	97ha(4%)	89ha(4%)

4. 君津市の専業・兼業農家推移

全体的に農家数は減少しているが、農業収入を主とする農家は増加。
経営耕地 1ha 未満の比較的小規模農家が約 2 / 3 を占める。



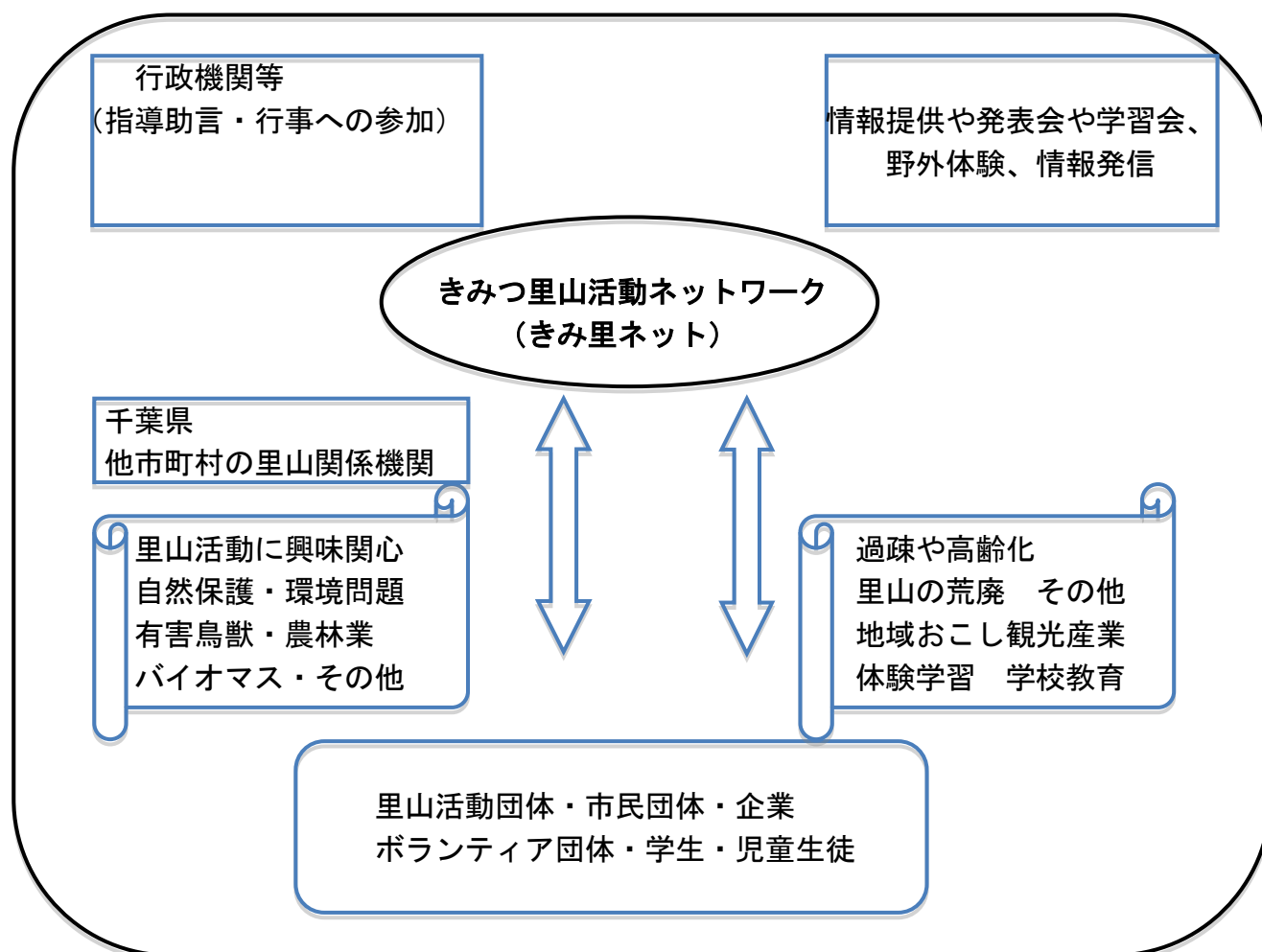
5. 君津市の主な生産物 (君津市農業産出額)

	平成16年	平成17年	平成18年
米	2,310百万円	2,190百万円	2,040百万円
雑穀・豆類	140百万円	140百万円	140百万円
いも類	290百万円	250百万円	270百万円
野菜	1,590百万円	1,510百万円	1,540百万円
花き	240百万円	320百万円	300百万円
畜産	5,000百万円	4,510百万円	4,520百万円
合計	9,570百万円	8,920百万円	8,810百万円

きみ里ネットの概要について：2年間の活動の積み重ねから

設立の経緯は、平成26年5月18日の里山シンポジウムin君津大会（テーマ：里山・裏山・命山）に参加した里山関係者や一般市民の総意と市行政機関の助言で「ちば里山宣言in君津」や市の健康都市宣言にある「人がつどい活力あるまちづくり」や千葉県里山条例の具体化を図ることが必要であるとして、翌年の平成27年5月23日に里山活動発表会（テーマ：君津の里山のにぎわい）と設立総会を経て、きみつ里山活動ネットワークを目指した個人や団体が協力して設立された団体です。

里山で活動している団体や、里山に関心がある市民・企業など、様々な立場の人々が、交流や情報の共有を通して、それぞれが持っている技術や知恵、人材などのネットワークを構築することにより、ひとつの大きな力となって、多様な里山活動を互いに支えながら、人や生き物にとってかけがえのない里山の環境を、未来に引き継ぐことを目的としています。（里山に託す私たちの未来）



現在、君津市内で里山をフィールドに活動している多くの団体があります。その活動の目的や方向性は異なりますが、一層活力ある活動にするためには連携や協働など望まれます。

本年度は、君津市文化のまちづくり市税1%支援事業の交付を受けて、里山活動事例発表会や実技研修や研修視察等を計画するなど、さらなる活動の活発化を図ろうとしております。

きみつ里山活動ネットワーク（きみ里ネット）への加入のご案内

事務局より

里山活動関係諸団体
関係者 各位

きみつ里山活動ネットワーク
代表 鈴木 宗男（印略）

きみつ里山活動ネットワーク加入について（お願い）

拝 啓

貴団体におかれましては、ますますご隆盛のことと存じます。

日頃より、里山活動並びに地域づくり活動におきまして、ご尽力賜り誠にご苦労様です。おかげさまで、里山関連活動が活発になりつつありますことは同慶の至りであります。

さて、里山、里山に連なる農地、そして村々の生活は大きな苦難を迎えています。

地域の人々が自然に働きかけ豊かな暮らしの源泉として営々と積み重ねてきた林業、農業ともに大きな試練の時を迎えております。

このような時、私たちは里山をキーワードに、地域の暮らしと生業に新たな活力を取り戻し、生活の向上を図ろうと、活動に着手しました。

一昨年は、市内の里山や地域活動団体の協力を得て、生涯学習交流センターを会場に全県を対象に450名余りの参加者を得て、第11回里山シンポジウム in 君津「テーマ：里山・裏山・命山 その恵みと創造」を開催し「里山宣言 in 君津」を発表しました。

その後の報告会において、シンポジウムでの出会いを大切に、協力いただいた団体や個人の皆様を中心に緩やかな連絡提携組織を立ち上げて、市行政各部の支援も得ながら全市的な活動に発展させて行くことが重要であるとのご意見をいただきました。

昨年は、活動発表会を開催し、里山ネットワークについて全員で協議し「きみつ里山活動ネットワーク」の組織をスタートさせました。

本年度は、君津市文化のまちづくり市税1%支援事業の交付を受けて、里山活動事例発表会を計画するなど、さらなる活動の活発化を図ろうとしております。

つきましては、貴団体並びに貴殿に於かれましては、別紙加入の案内を参照されまして、ぜひともご加入いただき、ともに「里山ににぎわいを」取り戻し、君津の明るい未来に貢献する活動を、ともに展開しようではありませんか。

よろしくご理解、ご支援いただきますようお願いいたします。

敬具

連絡先

尾形孝和 299-1162 君津市南子安3-1 2-2 2
電話：090-8745-3395

ちば里山宣言 in 君津

私たちは、「里山・裏山・命山 その恵みと創造—見る、聞く、
触れる、味わう、嗅ぐ、そして、作る、遊ぶ、学ぶ—」をテーマに
第11回里山シンポジウム in 君津に集いました。

里山と地域にかかわり活動する私たちは
「里山の持つ魅力と人をはぐくむ底力」について語り合い
「里山に託す私たちの未来」を共有し、次のとおり宣言します。

里山は、先人が自然に働きかけ創り上げた
豊かな生活空間です

里山は、水・薪炭・萱・山菜・落ち葉・緑肥・木材など
多様な恵みをもたらす命山です

里山は、季節ごとに姿を変え、心をいやす
美しい景観、心のふるさとです

東京湾越しに富士を望む君津は
山と水に恵まれ、田園が広がる里山の象徴です
かつてトキとコウノトリが飛びかった君津
人と動物、植物が織りなす農・林・漁業を営む伝統の景色です
いま里山の多くが、人の手が遠ざかり
賑わいを忘れ、荒れ、寂しく、沈んでいます

私たちは今、里山の恵みの偉大さにきづき
再び里山に地域の誇りと命の賑わいを求めて行動をはじめました
私たちは、里山に親しみ、里山に抱かれ、里山にいやされ
里山文化に学び、里山に働きかけ、里山を守ります
私たちは、人と自然が一体となった
生物多様性の宝庫・里山の再生と再創造を進めます

そのために、私たち市民と市民グループは
国・県・市町村、企業・学校・公民館・博物館などと共に
広く海外の人々とも結び、知恵を出し合い、協働し
里山を子どもたちそして未来に生きる人たちに引き継ぎます

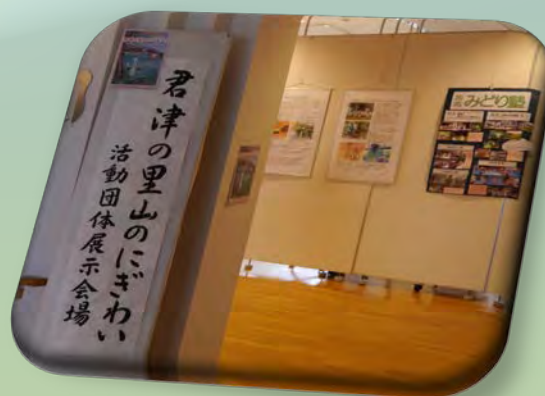
平成26年5月18日

第11回里山シンポジウム in 君津 参加者一同

きみつ里山活動実践事例発表会

ちば里山L I F E体験交流事業

君津市「文化のまちづくり1%支援事業



昨年の活動団体展示の会場風景

発行 平成28年10月8日(土)

きみつ里山活動ネットワーク

<http://kimitsu-satoyama.net/>